

平 29 年度 市長懇談会「庄原いちばん談議」

(しょうばら花会議)

会 場	食彩館しょうばらゆめさくら
日 時	平成 29 年 11 月 27 日 (月) 18:00~19:00
出席者数	参加者 9 人、市 8 人
懇談テーマ	しょうばら花会議の活動について
懇 談 内 容	
<p>■開会（進行：行政管理課長）</p> <p>■あいさつ 木山市長 しょうばら花会議 代表 佐藤 浩子</p> <p>■懇談テーマ「しょうばら花会議の活動について」</p> <p>○しょうばら花会議の活動について</p> <p>○今後の活動について</p> <p>■意見交換</p> <p>(参加者)</p> <p>花会議として庭主に金銭的な補助をしていない。花会議の活動はボランティア活動であるが、現状は観光客の増加によりボランティアの域を超えている。一生懸命頑張っている庭主に何らかの方法で報いたいと思っているがいい方法がない。</p> <p>また、理念にもあるように身近な玄関先から「花と緑のまちづくり」を広げていきたいとの思いから、限られた予算の中で小学校や中学校、介護施設や自治振興区等での花壇や寄せ植えづくりの活動を地道に続けている。</p> <p>(市)</p> <p>庭主の方は、お金や手間暇をかけて庭園を造られている。行政としても庭主の努力に対して何らかの形で支援していきたいと考えている。例えば、現在しょうばら花会議で担っ ていただいている事業の一部について、他の団体が担ったり、庄原観光いちばん協議会（花 と緑のまちづくり部会）などの大きな事業や予算の中で、支援をしていくなどしょうばら 花会議の負担を軽減できないか一緒に考えて参りたい。</p> <p>また、市の職員の参加が少なくもっと見に来てもらいたいとの意見も聞く。花が好きな 職員も沢山いると思うので、職員にもしっかりと周知をしていきたい。</p>	

(参加者)

しょうばら花会議が今後の活動として描いているのは、庄原市にはもっと素晴らしい魅力があることから、これまでの活動とあわせて比婆山や吾妻山、帝釈峡などの観光資源と手をつなぐことで「花と緑のまち」「自然をアピールするまち」として県内・県外に広げ、庄原市を活性化させる輪の中で活動していきたいと考えている。もともとしょうばら花会議の活動は、それぞれが今までやっていることを一つ一つ手をつないでいくとの発想から始まった活動でもある。

(参加者)

花と緑のまちづくりについて、商工観光課だけでなく課をまたいで連携・協力をしていただきたい。そうすれば、市民の周知や参加も増えてくると思う。

(参加者)

しょうばら花会議では、園芸福祉士の資格を2名が取得している。介護施設での寄せ植えづくりや西城市民病院への花壇づくりなど資格を取得したことから始まった活動もある。しかし、資格取得には土日の研修に伴う宿泊費や試験を受けるための受験料など負担が大きい。三次市は、受験料36,600円の内、行政から3万円の助成があるため沢山の方が資格を取っている。花と緑のまちづくりを推進していくためには、そういった支援や資格が活用できる場をつくっていくことが大切であると思う。

(参加者)

日本には「花と緑のまち」は沢山あるが、庄原市は他とは違う。いざなみ街道のように、「神々が舞う花と緑のまち」として、より高い理想をもって活動を進めていきたいと考えている。

(参加者)

バスツアーで立烏帽子山（たてえぼしやま）や帝釈峡に行って遊覧船に乗った。ガイドさんもすばらしかったし、知らないことも多く楽しかった。しかし、観光地のトイレが綺麗ではなく、使えないトイレもあった。バスで行けばトイレも順番待ちとなる。せっかく素晴らしい観光地であるので、トイレが綺麗であればもっとよくなると思う。

(市)

観光地というのは、トイレが綺麗でないとまた来ようという気にならない。帝釈峡について県の報告では、今年度から来年度にかけてマス池のあったところにトイレを整備する予定である。また、雄橋に行くまでの白雲堂のちょっと先にも水洗トイレを整備する計画になっている。

その他、道後山や比婆山関係のトイレも老朽化しているため、県に要望をしていきたい。

(参加者)

フラワー通りの花壇について、年中草がぼうぼうとなっている。地元の自治会として、年 2 回の清掃時には一緒に花壇のまわりも草取りをしている。オープンガーデンの時期もあるので、月に 1 回定期的な見回りや草取りなどの管理を指導して欲しい。

(市)

フラワー通りの花壇は商工会議所が管理している花壇である。12 月 9 日には、一斉に草取りをする取り組みも予定されているので、あわせて商工会議所にも今日の話をつなげておく。

(参加者)

庭主も高齢化をしており、60～70 歳代が多い。新たな庭主の確保も簡単ではないため後継者の育成や確保が課題となっている。このままだと会員も年を取るし、ジリ貧になってしまう。庭主が増えていかないとやめるにやめられない。広報紙などでしっかり宣伝してもらうことはできないのか？

(市)

今年は、ガーデンセミナーの開催など新たな庭主の育成について取り組んでいるが、なかなか庭主の確保に繋がっていない。後継者の問題もあるため広報紙などをしっかり活用して庭主の確保につなげていきたい。

■市長まとめ

花を見に来られる観光客のニーズは高く無限大であり、庭主さんが相違工夫を凝らしながら花と緑のまちづくりに取り組んでおられる。この懇談で、皆さんのお声をしっかり聴かせていただいたので、財政の問題や後継者の問題もありますが、一緒に智慧を絞って沢山の方に参加をしてもらえる仕組みをつくっていくことが大事であると思う。

また、皆さん方の素晴らしい取り組みを、もっと市外や県外の方々に知ってもらえるよう周知を図りながら懇談により得た貴重なご意見を今後のまちづくりにつなげていきたいと考えております。

また、庄原市には多くの観光客が訪れる国営備北丘陵公園があるが、市民の利用が少ない。現在、北入口エントランスを活用し、市民の方にもしっかり利用できるような方法を考えていますので今後ともご協力をいただきたい。

本日は、ありがとうございました。